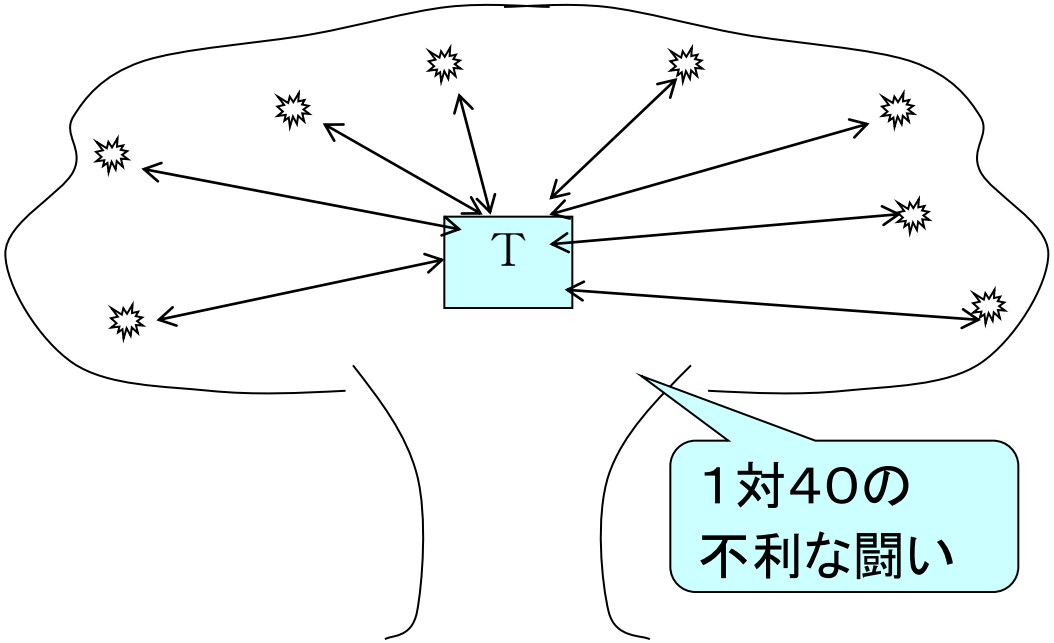
枝葉での対応（行動レベル）

第1の視座に留まる教師の指導の特徴

＜学級で発生する様々な問題・出来事へTが個別に対応＞

＝行動制御型指導



＜Tが一人で40人の個別の問題・出来事に対応することは困難＞

根幹での対応（価値レベル）

第2，第3の視座をもつ教師の指導の特徴

＜一つ一つの問題の丁寧な取り上げ＞
＜判断する価値や考え方を問い返しながら育成＞

↓

価値に戻って考えようとする子

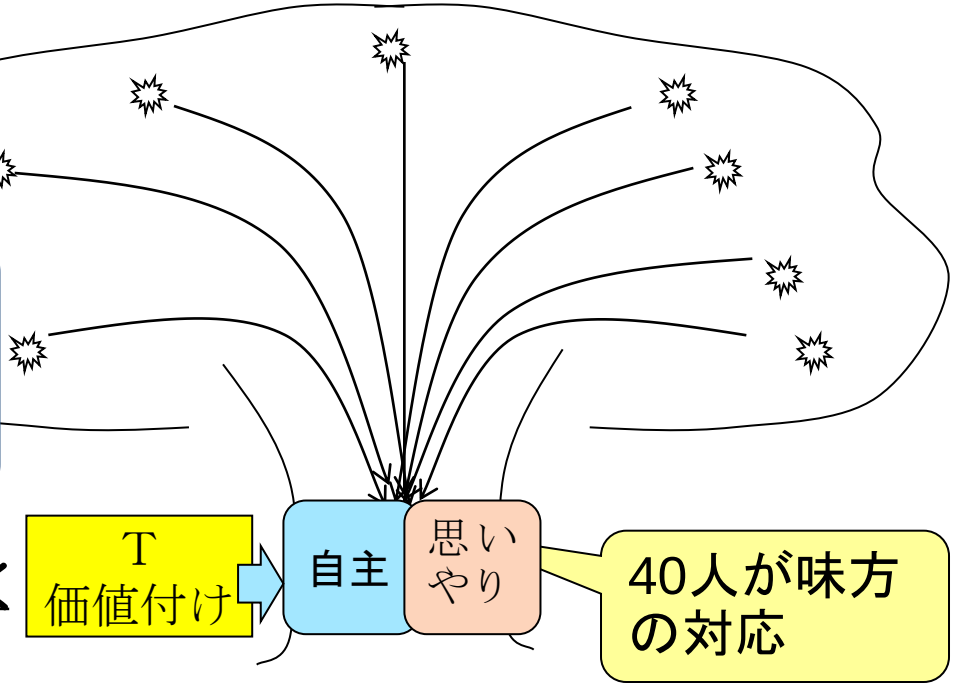
↓

はじめは丁寧な対応が必要
（フロントローディング）

Cの自主・自律
⇒Cのエネルギーを活かした
学級経営
T省力化；価値付け指導へ

↓

子どもが自分たちで解決していく



価値観を育てる教育＝考える子を育てる